

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300156		
法人名	社会福祉法人心愛会		
事業所名	ハーモニー並木(グループホーム)		
所在地	郡山市並木5-6-7		
自己評価作成日	平成26年5月31日	評価結果市町村受理日	平成26年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郡山市の中心市街地にあり、公園や飲食店などに比較的短時間で移動できることから、外出や外食など出かける機会を多く設け、社会性を損なわないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 自治会に加入し、地域の各種行事に参加したり、ボランティアや体験学習を受け入れ、地域の方々への介護講座の開催、資格取得のための実習生の受け入れなど、積極的に取り組んでいる。
2. サービスの向上を図るため職員研修を計画的に実施し、職員の資質向上に努めている。
3. 環境整備・園芸委員会や感染防止委員会が中心となり、事業所内外の環境整備に努めており、過ごしやすい生活環境となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示してあるほか、全職員が法人理念の手帳を所有。朝礼で理念を唱和し行動基準にそって実践につなげている	法人理念を事業所内に掲示したり、法人理念の手帳を所持し随時確認している。また、朝の申し送りなどで唱和を通して共有し実践しているが、事業所独自の理念が作られていない。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を全職員で作製し、その理念を共有して実践して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃活動、行事に参加、小学校との交流もある。外食、買い物など外出の機会を多く作っている。	自治会に加入し、町内会の清掃活動や花火大会などの行事に参加したり、小学生の運動会などを通して交流を行っている。また、外食や買い物、ボランティアや各種の慰問などを積極的に受け入れ、地域に根ざした運営に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向け介護講座・家族向け勉強会を開催など地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催取り組みや改善内容について相談したりアドバイスをいただいている	運営推進会議は定期的開催して、利用者や処遇の状況、家族や地域との関わりについて、委員から率直な意見をもらい、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者・介護相談員に事業所内でのサービス内容や困りごとの相談にのっていただき連携を図っている	介護保険制度への疑問や個人情報などについて、市担当者に相談を行って協力関係を築いている。また、サービス介護相談員を定期的に受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内外への研修へ参加、身体拘束委員会を構成し月1回のミーティングを通じて身体拘束をしないケアを理解し実践しているテレビ、新聞等の事例をあげ周知版に掲載している	身体拘束廃止委員会が中心となって、他の事例などを活用しながら、定期的に勉強会などを開催し、拘束の無いケアに努めている。また、玄関は施錠せず見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の勉強会に参加、虐待防止関連法を理解、身体拘束委員会が職員に身体拘束についてのアンケートを取るなど虐待が見過ごされることがないように注意し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内での勉強会開催、個々の必要性について活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行う場合不明な点があればその場で充分説明しご理解納得をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に行っている運営推進会議や、家族会、家族参加型行事の開催、また家族面会時の声掛けなど話しやすい環境を設け意見、要望をお伺いし運営に反映させている。	利用者には各種の行事や日常生活の関わりの中で、家族には運営推進会議や家族アンケート、面会時などで意見や要望を聞き、それらを運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別カンファレンスや職員会議、懇親会などを通し職員の意見や、提案を聞き内容によっては事業推進会議に提案し運営や、職場環境の改善に反映させている	管理者は職員会議の中で意見を聞いたり、年2回ステップアップシート(個人目標管理)を活用した個別面談を実施して、職員の意見や要望を聞き、それらを運営に反映させている。また、職員の動向を見ながら随時声かけを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の取り組みを行い給料水準に反映させたり、個別に面談を行い意見、要望を聞くなどして職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員力量に合わせて勉強できるように法人内で研修指導の部署があり研修内容や受講の指示を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部、外部研修を通して同じ環境で働く人との交流があり、意見交換により仕事に対する意識やサービスの向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、本人様、家族様と話をする際親身になって話を聞きケアプランに反映させることにより信頼される関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、本人様、家族様と話をする際親身になって話を聞きケアプランに反映させることにより信頼される関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様に聞き取りを行いその時もっとも必要とされるサービスを提供、より安心した生活をおくっていただくため内容を検討して支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なじみの関係づくり、職員より積極的にコミュニケーションを図っている、できることは自分でやっていただく、その方にあった役割を持っていただき暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の意向や状態を面会時などにお伝えし情報の共有を図り必要な支援があれば家族様に協力いただき共に支えていく関係をきずいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問しやすい和やかな雰囲気を心がけ家族友人の面会が継続できるように支援している	自宅訪問や墓参、地域の各種行事などへの参加、馴染みの商店や理美容室(出張含む)の利用などを通して、人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を同じテーブルに配置するなど気兼ねなく楽しく生活していただけようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には本人様、家族様に情報提供を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様来訪時、意向の確認や利用者様との日頃の会話、支援時の反応を通し希望や、意向の把握を行いカンファレンスで検討サービス内容に反映させている	日頃の会話や支援の中で、一人ひとりの思いや意向を聞き、把握が困難な場合は、本人の表情の中から汲み取ったり、家族などから聞き取って、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの聞き取りやサービス提供時に、職員が得た情報により生活の把握を行いサービス利用時に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的で開催している運営推進会議や、家族会、家族参加型行事の開催、また家族面会時の声掛けなど話しやすい環境を設け意見、要望をお伺いし運営に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要事項にサービス担当者会議を開催本人様、家族様、関係者が話し合い介護計画の見直しを行っている	職員の居室担当制を執り利用者や家族の意向、日々の気付きや職員の意見などを加え、アセスメントとモニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成しているが、見直しの根拠となる支援経過記録の整備がされていない。	介護計画の見直しの根拠となる支援経過記録を整備し、それらを基に現状に即した介護計画を作成して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録や日誌に記録された情報を職員間で共有し実践や介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様お一人おひとりのニーズにあったきめ細やかなサービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の参加者から情報収集、町内会に加入しており地域資源の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望に沿った医師を受診している、受診は家族様の協力を得て対応、受診結果は電話連絡や、お手紙の中に記載し家族と共有し適切な医療が受け入れられるようにしている	本人や家族が希望するかかりつけ医としているが、大半は事業所の協力医を希望している。受診は家族の協力を得て対応している。家族が出来ない場合は事業者が支援している。通院結果は電話や便りなどで報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中でお客様の変化などがある場合看護師に相談個々に適切な受診や看護を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護情報提供書を病院に提出している。またお見舞いに行った際状態の把握や相談員と連絡を取るなどして病院との連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用時看取り指針を作成し事業所でできることを家族様に理解していただいている。利用者と家族の希望により事業所で看取りを行う場合事業所協力医との連携で看取り介護をおこなっている	重度化や終末期のあり方について、契約時にアンケートを実施し、利用者と家族の意向を確認しながら事業所の「重度化・終末ケア対応指針」により説明し同意を得ている。終末期の対応は協力医、家族、職員等の関係者が方針と情報を共有しながら、終末ケアの実践に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救命講習会の受講、内部研修においてシミュレーションを行い冷静に対応できるように訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に沿って自主的避難訓練をおこなっている。町内会と周辺の企業に緊急時の応援依頼を行っている	防災計画に基づいて定期的に防災訓練や防災機器の取扱説明など実施している。また、町内会や隣接している企業などの協力体制が整備されている。ヘルメットや懐中電灯、パンや水など災害に備えた備品なども準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修で接遇マナーや対応の仕方などを学んでおり、職員同士注意しあい意識して言葉かけ対応している	接遇研修を数多く実施しており、職員は常に利用者の人格の尊重や、プライバシーに意識しながら支援している。また、職員相互の対応について注意しあう取り組みも行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から積極的にコミュニケーションをとり思いや希望を表したり自己決定しやすい環境作りをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りお客様のペースに合わせ希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容による散髪で身だしなみ、ブライダルフェアなど行事でドレスを着用したりおしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の買い出しに行ったり、野菜を切るなど調理の下準備などできる範囲で協力していただいている、また、献立に個々のお客様の食べたいメニューを取り入れるなど工夫している	食材の購入、調理の下準備から簡単な調理、配膳や下膳など、職員と利用者が協力しながら行っている。嗜好の把握や献立の立案は、食事委員会が中心となって行っている。また、外食や季節に応じた献立も取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態にあった食事形態や量での提供を行い季節にあった献立づくりに努めている。食事制限のある方、摂取量の少ない方については家族協力のもと代替えなど個々に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力にあわせた支援を行い口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握トイレ誘導や介助を行い自立にむけて支援している また状態の変化に応じてカンファレンスを行い排泄形態、時間、の検討をおこなっている	排泄チェック表や利用者の表情などから、利用者の状態に合わせた声かけを行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。また、声かけなどは羞恥心に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取量の把握、水分ゼリーの提供、腹部マッサージ、食物繊維の多い食品の提供などを行い自然排便をうながしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に合わせて、菖蒲湯、ゆず湯、リンゴ湯など楽しんだり、また、出窓に植木を置き季節の花などを楽しんでもらっている	利用者の状態や体調、希望に配慮し、本人の意向に沿った入浴支援に心掛けている。また、浴室に植木を置いたり、菖蒲湯やゆず湯などをして、くつろいで入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣にあった起床時間や就寝時間を尊重している 冷暖房を調整して寝やすい環境作りをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録や、ファイルに薬事がファイルしてあるまた、薬の辞典をおきスタッフがわかる仕組みづくりをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様、家族様にお聞きしたり生活していただいているうえでその方にあった役割づくりや趣味活動を把握、その活動を通して気分転換を図っていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画の中で外出計画をたて自然に触れる機会や、買い物、外出 地域行事にも参加 近所に散歩に行くなど日常にお客様の希望に沿った支援ができるようにしている	日常的な散歩や、近隣のスーパーに食材購入に出かけたり、小学校の運動会や敬老会など地域行事等に参加している。また、年間計画により紅葉狩りを兼ねたドライブなど、行楽地への外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため事業所に持ち込みをご遠慮いただいている。買い物にいくときや急に必要になった物については事業所で立替して対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を飾ったり、お客様の作品を飾ったり、お客様の好む音などをながし居心地よく過ごされる工夫をしている	事業所全体が木造建築で、木目を生かした落ち着いた環境となっている。また、日中活動で制作した作品や季節の生花を飾り、温度や湿度が管理がされ、清掃が行き届いた中で、快適な生活が送れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーティションを活用して個室空間を作ったりして居心地良く過ごす工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご自宅で使っておられた家具や馴染みのものをご使用いただき自宅と近い環境で安心して生活していただけるようにしている	居室はプライバシーが守られた作りになっており、寝具、衣装ケース、ラジオカセット、写真など持ち込み物は少ないが、本人や家族の希望に合わせて配置し、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置位置を工夫したり、洗面台に杖かけを設置、トイレにプレートを貼るなど安全にできるだけ自立した生活をおくっていただけるようにしている		